令和５年度（第１５期第６回）小平市廃棄物減量等推進審議会　会議要録

１　日時

令和 5 年 6 月 29 日（木）　午後 2 時～午後 4 時

２　場所

小平市リサイクルセンター　2F 多目的ルーム

３　出席者

〇市長

〇小平市廃棄物減量等推進審議会委員　15 名

山谷修作会長、渡辺浩平副会長、青野敬吾委員、浅野薫委員、出雲崎暁子委員、太田佳子委員、岸野好江委員、木村源一委員、先山厚子委員、下條隆久委員、武田直子委員、丹治由紀子委員、内藤新司委員、林周子委員、茂木勉委員

（欠席）伊東恵美委員、山倉尚委員、吉浦髙志委員

〇事務局　6 名

環境部長、資源循環課長、資源循環課推進担当係長、資源循環課推進担当 2 名、資源循環課管理担当 1 名

４　傍聴者

0 名

５　諮問

「小平市一般廃棄物処理基本計画に定める重点施策の推進について」

市長より小平市廃棄物減量等推進審議会に諮問

６　議事

小平市一般廃棄物処理基本計画に定める重点施策の推進について

７　配付資料

リサイクルきゃらばん実施報告	資料１
こだいらグリーンフェスティバル実施報告	資料２
ごみゼロフリーマーケット実施報告	資料３

８　内容

＜諮問＞

「小平市一般廃棄物処理基本計画に定める重点施策の推進について」
小平市長より審議会へ諮問。
別紙「諮問書」参照

＜議事＞

小平市一般廃棄物処理基本計画に定める重点施策の推進について

（事務局）
基本計画の第５章に掲げている４つの基本方針の概要及び、各委員より予め提出のあった重点施策に関するアイデアシートについて説明。

（山谷会長）
基本方針１の「分別方法の啓発」に関しては、多くの委員からご意見をいただいた。委員の皆様のご意見を紹介いただきたい。

（武田委員）
ごみ収集を仕事にしている芸人さんが、SNS でごみの分別について動画・写真つきで発信しており、有意義だと感じている。小平市でも若い人に向けて分かりやすいように周知できたら良いのではないか。

（渡辺副会長）
日頃から学生に接していると、動画から情報を得ることが多い。動画で配信することは、若い人に訴求するという意味ではかなり有効だと考える。汚れたプラスチック製容器包装をどの程度洗って出せばよいのかを動画で出したら分かりやすいと感じる。

（先山委員）
汚れたプラをどの程度洗えば良いかについて、環境フェスティバルやリサイクルきゃらばんなどのイベントで実際に展示してアピールし、実際に見てイメージしてもらうことが重要である。ごみを減らしたいと思っている方に対して伝わる取組みができたらよいと思う。例えば、燃やすごみの中に入っている、本来資源となるものの展示などできたら良い。
分別をする際に、ごみカレンダーを参考にする人が多いので、少しページを増やして掲載すると伝わりやすいと思う。

（山谷会長）
若い世代に伝わりやすい広報の工夫が必要と考えられる。
有料化導入の際に動画を用いたと思うが、視聴率はどの程度だったのか。

（事務局）
視聴回数は 2,800 回ほど。
今後は、二次元コードなどを用いて動画に誘導する方法も考えていく必要があると考えている。

（武田委員）
　動画の視聴回数を伸ばすために、高校生など若い世代を募集して発信に力を入れるのはどうか。

（山谷会長）
　自治体によっては、容プラの分別や充電式電池の分別について動画を作成して啓発をおこなっている。若い人をターゲットにしたものもあるので、そういったものを参考にして、動画の作成を検討してみるのもよいと思う。

（渡辺副会長）
　別の自治体では、学校から啓発ポスターを募集して、審議会で審査をおこなっているところもあるので、小平市でもどうか。カレンダーや収集車に掲載するなど、活用ができると思う。
　また、子どもに対しても励みになると思うので、若い世代に対しては良い機会になると思う。

（丹治委員）
　コダレンジャーとコラボした啓発ができれば良いのではないか。発信の仕方の中に、様々なキャラクターを登場させるのも注目を集める手段の一つだと思う。

（山谷会長）
　動画を用いた啓発の仕方はこれからの時代、必要になってくるため、これからの啓発の在り方として検討していただけたらと思う。

（渡辺副会長）
　学校での出前授業や、施設見学など推進することができたら良いと思う。

（事務局）
　学校への啓発については、副校長会で出前授業と施設見学について周知をした。また、さらに幅広い世代への啓発として、保育園にも案内を送付している。

（山谷会長）
　事業系の紙おむつについては、産廃として事業者が処理しなければならないが、現状は事業系一般廃棄物として市のごみになっている。おむつは、素材の約半分がプラスチックで占められているため、産廃として位置づけをおこない、事業者へ産廃として排出するよう働きかけることが望ましい。
　全国の他の自治体では、既に産廃として位置付けているところもあるため、他の自治体と協力して事業者の排出責任を問いかけていく必要があると考える。

（渡辺副会長）
　事業者から排出されるプラスチックは産廃になるため、大学の売店で販売している弁当の容器などは大学側で選別している。小平市では事業所から出たプラスチックについては、かなり厳しく指導をおこなっているのか。

（事務局）
　現実的に細かなプラスチックなどはそこまで厳しくチェックできていない。

（渡辺副会長）
　市町村によって方針がかなり変わってくるので歩調を合わせるのは難しいと思うが、費用負担の面から見ると出来る限り事業者に負担していただくのは良い考えだと思う。

（山谷会長）
　基本方針２に移る。意見がありましたらお願いする。

（事務局）
　基本方針２では食品ロス関係が多かったように感じる。今年度、小平市として食べきり協力店認定制度を導入予定である。基本方針２の中で参考になるような意見があれば、要綱案にも取り入れたいので、そういったことも念頭に置いて議論をしていただきたい。

（渡辺副会長）
・食べ残し削減につながる割引案内とはどのようなものを想定しているのか。
・「規格外の野菜を積極的に使用する」といった条件があっても良いのではないか。
・協力店へのメリットは何があるのか。

（事務局）
・食事を残さなかったらポイントを付与するなどの例が考えられる。
・規格外野菜の記載は入れたい。
・協力店のメリットについては、市報および市ホームページでの周知をしていきたいと考える。

（青野委員）
　食べ残したものを持って帰るための容器が必要であり、お店で用意する費用がかかってしまう。容器はどうするのか。

（山谷会長）
　持って帰るものは、加熱調理されたものが大前提。
　持ち帰り容器については、最近は紙製の容器が多くなったと感じる。持ち帰りの容器の準備については、お客様サービスとして店舗側で用意していることが多いのではないか。自治体によっては、容器を店舗に提供する場合もある。

（事務局）
　行政側での容器の提供は考えていない。食べきり協力店が増えていくことによって、自分で容器を用意する人も増えてくるのではないかと考える。
　条件のひとつでも合致すれば認定するので、事業者で選択してもらう。

（山谷会長）
　協力店をホームページ等で紹介してあげるのは、非常に重要なことであると思う。要綱内に入れないとしても、店舗側に何らかのメリットがないといけないのではないか。

（木村委員）
　「食べきり協力店」というネーミングに違和感がある。「食べ残しゼロ協力店」の方がわかり

やすいと思う。

（山谷会長）
　提供されたものを食べきるということもさることながら、食べきれるような量を選べるようにすることも非常に重要な取り組みである。

（事務局）
　他自治体でも「食べきり協力店」というネーミングを使っているところが多く、それに合わせる意味でこの呼び方を使っている。相乗効果により、この呼び方が一般化すれば良いなと感じている。

（山谷会長）
　平仮名で「こだいら」とつけることで、小平独特の取組みを考えているのではないかと思う。

（渡辺副会長）
　フードシェアリングアプリに参加していることも、認定条件にしても良いのではないかと思う。

（下條委員）
　“「こだいら」食べきり協力店”というネーミングにしても良いのではないか。小平ということがはっきり区別できると思う。

（丹治委員）
　近所の店では、他店より早めに割引をしている。店舗側も、売れ残って廃棄するくらいであれば、思い切った値引きで売り切る工夫を小売店に協力してもらうのも良いのではないか。

（山谷会長）
　茂木委員は、小売事業者としてどうか。

（茂木委員）
　スーパーでは早い時間から値引きシールを貼っている。値引きしても買っていただければ売り上げになるし、売れ残って処分をするにもお金はかかるので、買っていただけた方が助かる。

（山谷会長）
　消費期限等で翌日まで持ち越せない商品については、販売側で値引きなど工夫をしてもらっている。買う側としては、てまえどりがやはり重要である。ポップなど、消費行動に働きかけるものを協力店に提供するといったことも非常に効果的ではないだろうか。

（渡辺副会長）
　賞味期限を過ぎても食べられるということを何とかアピールしたい。
　消費者にいかに食品ロスを減らす行動を取ってもらえるかの仕掛けが重要だと思う。

（先山委員）
　「賞味期限をどのくらい過ぎたら廃棄するか」についてのアンケートを環境フェスティバル

等のイベントで取って、他の人がどのようにしているかを見てもらえるようにする。他に、食品が古くなるとどう変化するかを展示したり、安全係数について学べる機会を作って、広報をおこないたい。

（山谷会長）
おおよそ意見をいただけたようなので、議論はここまでとさせていただきたいと思います。

＜報告＞
（事務局）
リサイクルきゃらばん、こだいらグリーンフェスティバル、ごみゼロフリーマーケットについて報告。

（渡辺副会長）
ごみゼロフリーマーケットは 39 店舗参加とのことだが、参加希望の店舗は全員参加できたのか。

（事務局）
39 を上回る応募があり、場所の都合で 39 店舗の出店数となった。